

「大祓」式次第

一、手水の儀

手水舎にて手を洗ひ口をすすぐ

一、参進整列

宮司以下諸員（参列者全員）は

注連柱前の所定の位置に整列する

一、宮司祓を仰す

宮司が大祓を指示する

祭員はこれに応ふ

一、大祓詞を宣る

祓主が大祓詞を奏上する

この間諸員は頭を下げる

祭員は大祓詞中「く聞食せと宣る」

という言葉のところで、「ヲウ」と申す（ヲウは二回あります）

一、切麻にて祓ふ

各自包みを開き

先ず切麻を身体に振り散らして

（左・右・左と三回）身体を祓ふ

一、人形にて祓ふ

次に人形を取り出し

身体を撫で息を吹きかける

一、人形を集める

所役が諸員から人形を集め案上に置く

一、大麻にて祓ふ

祓主が人形を祓ふ

次に氏子地域全体（四方）を祓ふ

一、人形を清流に流す

所役が人形を清流に流す

一、参進整列

宮司以下諸員は茅の輪の前に整列する

一、茅の輪くぐり

宮司以下諸員は茅の輪をくぐる

茅の輪は左廻り・右廻り・左廻りと三度廻る

一、本社撰社に拝礼

茅の輪をくぐり終わって本社にて拝礼 続いて撰社にて拝礼

一、直会

直会所にて神酒拝戴（お神酒をいただきます）

平成二十三年大晦日

神明社広前にて

以上

みなつき
水無月の夏越しなごしのはらえ
の祓する人は

ちとせ
千歳の寿命延ぶいのちというなり